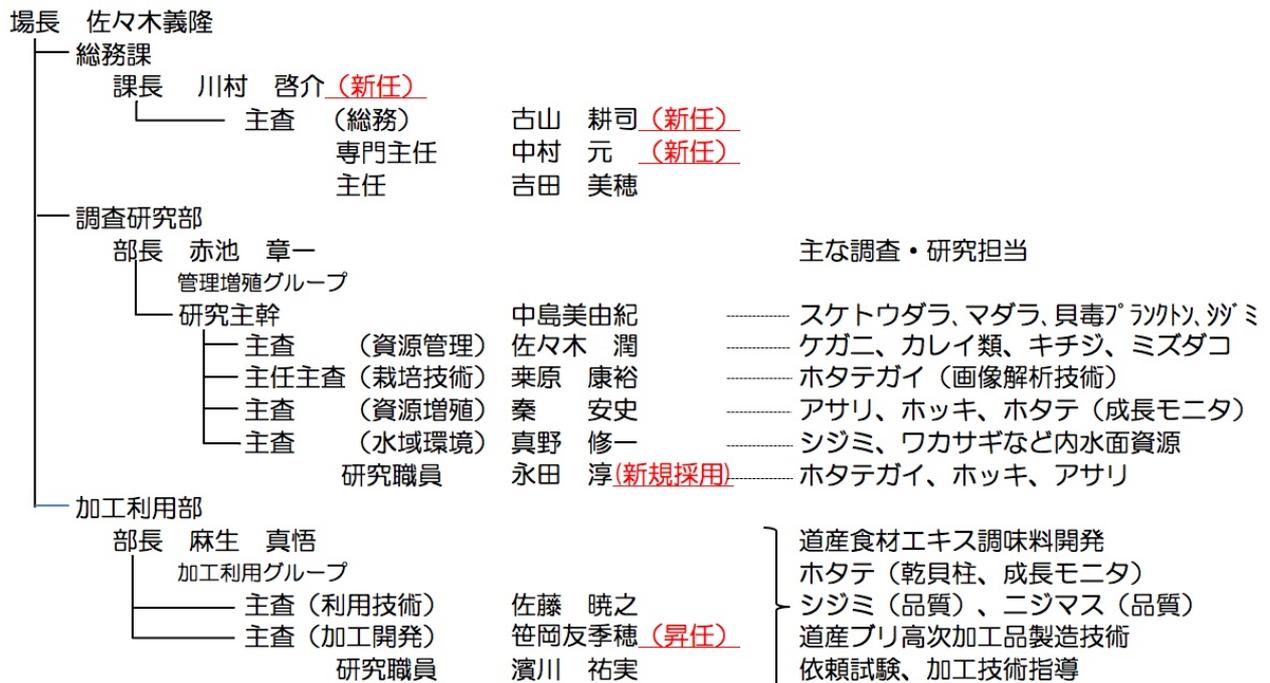


今回は令和2年度の網走水試の組織体制とマガレイの漁況予測の概略についてご紹介します。

《組織体制と業務担当》

令和2年度の網走水試の組織体制と各職員の業務担当は下図のとおりです。総務課の相内課長は留萌海区漁業調整委員会事務局長へ、板谷主査は檜山振興局産業振興部水産課漁業管理係長へ、藏田専門主任は宗谷総合振興局産業振興部水産課へ異動となり、後任としてそれぞれ川村課長、古山主査、中村専門主任が着任しました。調査研究部では、三好研究職員が中央水試資源増殖部水産工学グループ主査へ異動し、後任に永田研究職員が新規採用で配属になりました。また、加工利用部の清水主査は道総研本部連携推進部連携推進グループ主査へ異動し、後任に笹岡研究職員が主査に昇任しました。今後とも、ご指導ご協力のほど、よろしくお願い致します。



《マガレイの漁況予測》

網走水試では、稚内水試と共同で調査結果をまとめマガレイの漁況予測を行っており、先月の3月24日付で2020年(令和2年度)の漁況予測をホームページに掲載しました^{*1}。図1は道北日本海からオホーツク海におけるマガレイの漁獲量(1994年~2019年)の推移を示しています。

【夏漁(2020年5~8月)の予測】

オホーツク海の夏漁は、3歳魚が主体で、4歳魚も多く漁獲される傾向があります。本漁期の主体である2020年度の3歳魚(2017年級群)の資源量は、1991~2010年までの平均値と比べると低い加入量指数となっています。しかし、4歳魚(2016年級群)の資源量は、近年において比較的高い加入量指数を示しており、2020年度の夏漁の漁獲量は前年度より微増と予測されます。

【秋漁(2020年9~12月)の予測】

秋漁では3歳魚を主体に、加えて漁獲サイズにまで成長した2歳魚も加入してきます。2020年度の3歳魚(2017年級群)の資源量は1991~2010年までの平均値と比べると低い加入量指数となっています。しかし、2歳魚(2018年級群)の加入量は近年において比較的多いと考えられ、2020年度の秋漁の漁獲量は前年より増加すると予測されます。

(網走水試 佐々木義隆)

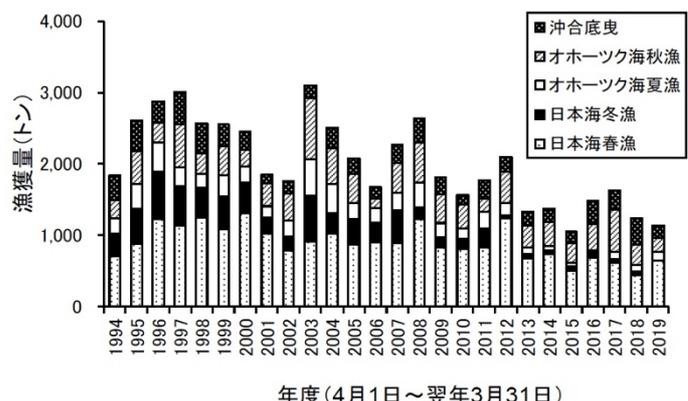


図1 マガレイ漁獲量の推移



*1 : http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/abashiri/section/zoushoku/att/2020magarei_yosoku.pdf